

都の養護学校

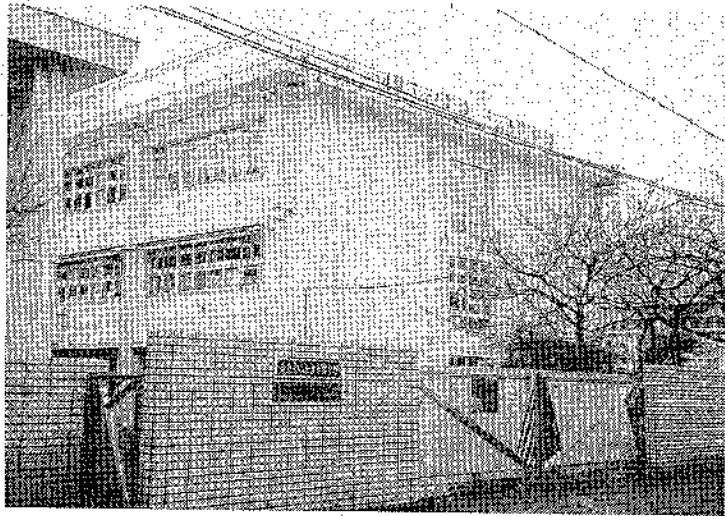
東京都立養護学校で性教育の授業が逆風にさらされている。子どもの実態を踏まえてつくられた授業や教材が「行きすぎ」「不適切」とされ、都教育委員会から嚴重注意処分を受ける教員が続出。教員は「授業も見ないで決め付けられた」と反発し、親たちも「親の要望に基づいて取り組んでくれていたのに」と不満を募らせている。

性教育に逆風

都教委「行きすぎ」と処分

保護者らは「処分は不当」として東京弁護士会に人権救済を申し立てた。申立人には映画監督の山田洋次氏や脚本家の小山内美江子氏など千五百人余りが名を運んだ。発端は七月の都議会で

の質問。「行きすぎた性教育」の例として知的障害児が通う七生(ななほ)養護学校(日野市)がやり主に挙げられ、都教委は急ぎ調査委員会を設置した。その結果、同校の教員十三人と他校に異



性教育の授業をめくり教員が嚴重注意処分を受けた東京都立七生養護学校(東京都日野市)

体の大切さ伝える歌や教材

「内容はしっかり」保護者や教員反発

七生養護学校で問題になったのは教員が授業で

の質問。「行きすぎた性教育」の例として知的障害児が通う七生(ななほ)養護学校(日野市)がやり主に挙げられ、都教委は急ぎ調査委員会を設置した。その結果、同校の教員十三人と他校に異

歌っていた「からだの部位を歌う中で『ベニス』『ワギナ』と性器の名称が登場するが『障子の程度や発達段階を考慮していない』とされた。都教委はこのほか①出陣場面が映ったビデオを上映②性器の付いた人形を使って性交について指導③「子宮内体験袋」や

射撃の仕組みが分かる男性器模型といった不適切な教材を使用しなどと指摘。これらの教材を学校から没収した。

同校は小学部から高等部まで約百六十人が通う。七年ほど前、子どもたちの間で性的なことが分

はじむ



射撃を言葉で説明するだけでは理解できず、具体的な教材が欠かせないという事情もある。

の存在を否定的にとらえがち。出産ビデオを見せるのも同じ狙いだ。飲めないことも多い。思いや迎えて生まれたんだと意識を育みたい」と意味での性教育もいっしょに説明する。子どもたちも問題なのか」と疑問を投げかけている。

聞いて！親のつぶやき

息子たち夫婦は、休日の土曜日を利用して孫一人ともども、毎週わが家へ昼食に来るのがこの数年恒例になっている。近くの町に住んでいるが、疎遠にならぬようにと一週に一回くらいは、両親の家に顔を見せるように」といって、現在まで続いている。

心から通じる親子とは

「子た食に作っといえ一問話よつを見指導反省をおよりの心かない子関を妻う。るっ